



AZUSA

CPLER Newsletter

2015.4.20 No.17

「梓」… 法曹分野に従事する早稲田大学校友（稲門法曹）と法務研究科修士・在学生および早稲田大学法学部教員を繋ぐ、法学情報・コミュニケーション誌。

文部科学省では、法科大学院の入学定員の適正化など抜本的な組織見直しを加速するため、各法科大学院からの優れた取組の提案を評価して、公的支援の加算となる取組を決定することとしています。このたびその審査結果が公表され、早稲田大学法務研究科は全国で最高の評価を受けました。

全国最高の評価を得た法科大学院加算プログラム

大学院法務研究科長 甲斐 克則

待ちわびていた文部科学省による法科大学院公的支援見直し加算プログラムの審査結果が、本年（2015年）1月16日ようやく公表されました。すでに報道等でご存知かと思いますが、早稲田大学法科大学院は2015年度の補助金について、基礎額算定率90%に今回45%が加算され、合計135%の配分率となりました。これは、52校中、最高の評価でした（下表参照）。皆様と共にこの結果を素直に喜びたいと思います。評価された項目は、次の4点でした。

第1は、「重層的な国際化対応プログラムの実施」であり、【卓越した優れた取組】として高い評価を得ました。開校以来実施してきた海外のロースクールとの交換協定に基づく留学や海外エクスターンシップへの派遣、コンソーシアムを組む海外ロースクールにおけるGlobal Forumへの派遣、Transnational Programへの参加など、他の追随を許さない重層的な国際プログラムの提供実績と、今後のさらなる継続的かつ安定的な取組が高く評価されました。海外にも視野を広げた法曹の育成は、法科大学院制度全体の中でも重要であることが再確認され、今後もさらにこの分野を発展させていく所存です。

第2は、「『挑戦する法曹』育成・特別コースの設置」であり、【特に優れた取組】として評価されました。これは、わがロースクールの開校以来のスローガンである「挑戦する法曹の育成」を具現化すべく、新しい法曹のあり方を示し、将来の就職や職域拡大を意識して特定分野を対象としたコースを提供する教育プログラムです。現在、裁判官や検察官を希望する学生向けの「任官支援コース」や、「グローバル・ビジネスコース」、「ソーシャル・イノベーターコース」などを設計中です。今後も、多彩な「挑戦

する法曹」が誕生することが期待されます。

第3は、「女性法曹輩出推進プロジェクト」であり、これも【特に優れた取組】として評価されました。これは、女性法曹の養成を重点的かつ明確に位置づけて、女性若手法曹をコーディネーターとして配置するとともに、ウェブサイトの立ち上げやゼミの開催などの取組をプロジェクト化して一体的に推進していこうとするものです。今後、さらに有能な女性法曹が輩出することが期待されます。

第4は、「『地方で活躍する法曹』養成プログラム」であり、【優れた取組】として評価されました。これは、地域における法曹養成に対する支援の枠組みとして、入試改革やエクスターンシップ派遣などが柱となり、現在、具体化を目指しています。

以上のように高い評価を受けた加算プログラムを実践していくためには、稲門法曹の皆様のご支援が不可欠ですので、どうか熱いご支援をよろしくお願い申し上げます。

法科大学院別2015年度補助金配分率(上位10校)

法科大学院	基礎額算定率	加算率	配分率
早稲田大	90%	45%	135%
一橋大	90%	40%	130%
東京大	90%	35%	125%
京都大	90%	30%	120%
慶應義塾大	90%	30%	120%
北海道大	90%	15%	105%
大阪大	90%	15%	105%
同志社大	70%	35%	105%
上智大	90%	10%	100%
神戸大	80%	20%	100%

法務教育研究センター助手紹介

法務教育研究センターでは、本年4月1日付で、センターの事業推進および研究・調査機能の強化等を目的とし、2名の助手を嘱任いたしましたので、ご紹介いたします。

おじま しゅういち
小島 秀一

2001年 早稲田大学法学部卒業

2006年 早稲田大学大学院法務研究科修了

2013年～弁護士法人早稲田大学リーガル・クリニック事務所勤務



この度、法務教育研究センター助手に採用されました小島秀一と申します。私は、本学法務研究科に2004年に1期生として入学しました。司法修習後は、1年間の弁護士業務の後、国会議員の政策担当秘書等を経て、現在は、早稲田大学リーガル・クリニック事務所にて弁護士業務を行っています。今後、学生の皆さんが、早稲田に入って本当に良かったと更に実感できるような支援を行っていきたいと思っています。

先日、ある方の対談記事で、ハーバード大学へ留学した際、教授から、「日本人は勉強ばかりするけれども、卒業後もハーバードを使い尽くすためには、教授とたくさん会って、一緒にプロジェクトをした方がいい。そうすると一生の財産、ネットワークができる」との旨を言われたという記事がありました。私自身も、本学の教授や仲間により、これまで何度も助けられ、人生が大きく動き、その繋がり有難さを強く感じてきました。将来、「挑戦する法曹」

としてより大きく活躍してもらうため、本学ロースクールの付加価値として、教員の先生方、稲門法曹の諸先輩方、本学修了生との多様な交流の機会を、学生の皆さんに提供できればと思っています。

その他にも、修習後、7年間、アカデミック・アドバイザーとして学修支援を行ってきた経験、稲門法曹会の事務局幹事をしてまいりました経験等を活かし、学修支援業務、修了後のキャリア支援や継続教育、本センターの情報発信等について全力を尽くしてまいります。

自らの研究としては、政策担当秘書の仕事を通じて得た知見をもとに、統治機構、立法形成過程の諸制度、公職選挙法や政治資金規正法、政務活動費制度等のあり方、及び、当該分野における法曹の活動の在り方に関して、研究を進めていきたいと思っています。

若輩者ではございますが、ご指導ご鞭撻を頂ければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

まつおか さちこ
松岡 佐知子

2007年 東京大学法学部卒業

2011年 早稲田大学大学院法務研究科修了

2013年～早稲田リーガルコモンズ法律事務所勤務



私は、昨年、早稲田ロースクールでアカデミック・アドバイザー（AA）として勤務しました。自分が学生の頃に先輩方からサポートしていただいたように、学生の学修をサポートし、また実務家と接することでモチベーションを上げてもらいたい、そう思って努めました。周りのAAを見ていても、そういう精神に溢れた人ばかりです。AA制度は、学生にとって、早稲田ロースクールでの学修をより実りあるものにしてくれる、素晴らしい制度だと思います。私は、法務教育研究センターの助手として、AAの皆さんを支援し、引き続き学生の学修サポートを続けていきたいと考えています。

また、実務家になってから、ロースクールでの授業は、実務家になってからも受けたものであった、それほど充実していた、ということを痛感しています。ぜひ、法律実務家になってからも学べる場を提供したいと考えています。

そして、私は、ロースクール在学時に、ジェンダー法研究会に所属して女性の社会進出について研究してきた経験を生かし、女性法曹の輩出・養成にも力を入れたいと思います。女性法律家のロールモデルが少ない、勉学に集中できない家庭的な（社会的な）事情がある等、女子学生に特有の困難もあるように思います（男性ももちろん困難を抱えています。ただ、類型的に見ると、多少困難の種類が違う部分があるように感じています）。女性法律家と触れ合う機会を積極的に作り、悩みを共有・解消したり、AA等から具体的なサポートを行ったりすることで、優秀な女性の皆さんが、一人でも多く合格し、実務家として活躍できるよう尽力します。

法務教育研究センターがあってよかった、そう言っていただけるよう、頑張ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

集り散じて ―修了式・入学式報告―

修了式



2015年3月25日（水）、大隈講堂にて大学院法務研究科の2014年度修了式が行われ、220名の修了生が早稲田の杜を巣立っていきました。

修了式後には、法務研究科承認学生研究活動団体 Welcome-LawSchool 主催のパーティーが、リーガロイヤルホテル東京において開催され、多くの修了生が参加し、盛会となりました。

修了生からのメッセージ

法務研究科で3年間で過ごして

まつお えりか
松尾 恵梨佳

2012年4月 法務研究科入学（3年標準課程）

2015年3月 法務研究科修了

法務研究科に入学してから3年間、思う存分法律の世界に浸りました。来る日も来る日も基本書と向き合い、難解な文章とぶつかり、理解力の乏しい自分に苛立ち、時には基本書やノートを投げ出して現実逃避をしたくなかったこともあります。しかし、そんなときでも、一緒に乗り越えてくれる同じ志をもった仲間、いつでも真摯に耳を傾けて下さる教授、そして生活面・精神面で支え続けてくれた家族のおかげで、3年間で無事に終えることができました。

修了にあたり、多彩な教授陣、充実した AA・チュー

ター制度、豊富な奨学金制度など、本研究科の力強いサポートを受け、これほど恵まれた環境で3年間学修させていただけたことに心から感謝しています。それだけでなく、クリニックやエクスターンシップを経験することで、今自分が学んでいることが将来どのように活かされるのかを自分自身で把握できたことも、本研究科で得た大きな財産です。

将来は、本研究科の代名詞ともいえる「挑戦する法曹」として、日本を背負って立つような存在になるべく、日々邁進して行きたいと思います。

3年間ご指導ありがとうございました。



入学式

2015年4月2日（木）、早稲田キャンパス8号館にて大学院法務研究科の2015年度入学式が行われました。満開の桜の下、151名の新入生が早稲田の門をくぐりました。

入学式では、甲斐研究科長の式辞や松村教務主任の挨拶とともに、来賓の原島有史弁護士（本研究科修了生）から祝辞があり、最後に新入生全員で校歌を斉唱しました。

入学式後には、稲門法曹奨学金に採用された新入生に採用通知書が授与されました。



入学式



稲門法曹奨学金採用通知書の授与

稲門法曹奨学金寄付のお願い

「稲門法曹奨学金」は、皆さま方からの毎年の寄付金により運営されるものであり、次年度以降も奨学金を継続するために、さらに皆さま方からの募金のご協力を仰がねばなりません。何卒、奨学金募金の趣旨をご理解いただき、温かなご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■ 法務研究科 退職教員のご紹介

2015年3月をもって、下記の5名の専任教員が退職されました。

● 定年退職

野村 稔（のむら みのる）教授
正井 章笹（まさい しょうさく）教授

● 任期満了

伊藤 眞（いとう まこと）教授
田中 昌利（たなか まさと）教授
畠山 武道（はたけやま たけみち）教授

■ 交換留学（派遣）報告

津田 祐（つだ ゆう）（2015年3月 法務研究科修了）

私は、国際ビジネス法務に携わることを希望し、法務研究科入学時より交換留学を志望していました。幸い、2013年8月から1年間、米・サンフランシスコのUC Hastingsに留学し、LL.M.（専攻：国際ビジネス&取引）を取得することができました。

実際にアメリカで生活し、その文化・価値観に触れながら学修することで、アメリカの法と文化をより有機的に理解することができました。また、比較法的視点を得たことで、帰国後の日本法の学修もより新鮮なものになりました。

留学の最大の収穫は、世界中から集まった同級生との交流を通じ、異なる文化や宗教観、ひいては自分自身の価値観への客観的な理解を深められたことです。さらに、全米随一の多様性と先進性を持つサンフランシスコの街で、業界を超えた幅広い人脈を構築することもできました。

学生ならではの自由な環境と充実したサポート体制の中で海外の一流ロースクールに留学し、学位を取得できる制度は早稲田だけのものであり、より多くの後輩たちに、積極的に交換留学に応募してもらいたいと願っています。最後に、貴重な機会を与えて下さった早稲田に感謝いたします。



UC Hastings 修了式で旗手を務めた筆者（上段右から3人目）

■ 早稲田ロースクール稲門会奨励賞

早稲田ロースクール稲門会 理事 有働 達朗（うどう たつろう）

本奨励賞は、課外活動や社会貢献活動に積極的な学生に対し、在学中の功績に報いる表彰を行うことを目的として、2009年、法務研究科の修了生で構成される「早稲田ロースクール稲門会」により制定されました。

2014年度も多数の優れた応募者の中、2名の学生が同賞を受賞いたしました。今回は、学内承認サークルやインターンシップ等における経験をもとに、学外への問題意識の発信をアピールした応募者が多く、昨年に引き続き、理論と実務の架橋という法科大学院の目的が果たされていることが確認されました。

2014年度早稲田ロースクール稲門会奨励賞受賞者

池邊 瑞和（いけべ みぎわ）（2015年3月 法務研究科修了）

● 活動内容

言語学分野における論文執筆活動、研究発表及びシンポジウムでの講演 他

● 受賞喜びの声

ロースクールの環境を活用した専門分野の学修の一例を知っていただきたく、応募しました。言語学の研究について、法律実務における周辺領域の学識の利用及び成果発表の社会的意義を評価していただき、光栄に思います。修了後も研究や学修環境の整備に取り組むつもりです。この受賞を機に、後輩の皆さんにも試験科目外への挑戦に関心をもってもらえればと思います。

池松 慧（いけまつ さとし）（2015年3月 法務研究科修了）

● 活動内容

法律雑誌『Law&Practice』の編集長としての活動、被災地支援に関する講演会の開催 他

● 受賞喜びの声

早稲田ロースクール稲門会奨励賞を受賞させていただけますこと、大変光栄に存じます。在学中にLaw&Practice編集委員をはじめとして数多くの活動に参加し、文字通りに早稲田を「使い倒した」点を評価していただけたものと考えます。奨励賞受賞者の名に恥じぬような、力と勇気と信念をもった立派な法律家となることを、ここにお約束します。

※受賞理由につきましては、法務研究科ウェブサイトをご覧ください。

2015年4月20日 発行

編集・発行 早稲田大学法務教育研究センター

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

Tel : 03-3208-9592 / Fax : 03-3208-9604

Email : law-school-cpler@list.waseda.jp

<http://www.waseda.jp/flaw/cpler/>